

北区の部屋だより

第81号

2016年4月



刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 28 年 4 月発行

北区こぼれ話 第80回

「ヤツ」?! 「ヤト」?!



～地名の読み方～

地名の読み方は独特なものがあり、私たちが思っている読み方とは違う場合も少なくありません。江戸時代の北区を例にとれば、その代表は「神谷」。現在でも町名として残っており「カミヤ」と読んでしまいそうですが、正しくは「カニワ」。これは官撰地誌である『新編武蔵風土記稿』に「カニワ」とふりがながあることでも明らかです。そして、今回のお話は上中里村の旧名であった「宮谷戸」の読み方です。「宮外戸」と書くこともあり、これまで「ミヤガイト」と読んできましたが、これに一石を投じる記事が確認されました。

その記述は、同じく『風土記稿』にあったのですが、書いている場所が北区とは遠く離れた埼玉県新座市にあたる新座郡原ヶ谷戸村の項。この村は「はらがやと」と読むのですが、その説明として単に「谷」では、「ヤツ」とも「ヤト」とも読めるので、あえて「戸」の字を付して「ヤト」と読ませるようにしたと記しています。そして、続けて「豊島郡宮ヶ谷戸村あり、又同郡滝野川村の端村、谷村はただちにやど村と唱ふ」記し、「ヤト」と読むのは宮谷戸村と同じだということです。この記述が正しいのであれば、宮谷戸村も正確には「ミヤガヤト」と読むことになります。そして、滝野川村の内、石神井川周辺にあたる地域である「ヤツ」も、本来は「ヤド」と読むのだということです。

この記述が本当に正しいのかどうか、現在でも定かではありませんが、滝野川村の「ヤト」に関していえば、「谷津」もしくは「谷津村」と表記しており、やはり「ヤツ」ではなかったかと思います。また、「宮谷戸」にしても、その語源を城郭の曲輪、すなわち「カイト」に求める説もあり、加えて、上中里地域に峡谷のような自然地形を想起できないこともあって、本当に「ヤト」と読んでいたのか疑わしくも感じます。その意味では、この『風土記稿』の記述も、あくまでも「一石を投じる」ものと理解しておいていいのではないのでしょうか（その後、研究が進展すれば明確になっていくのでしょうか）。

昭和5年（1930）に刊行された『岩淵町郷土誌』には、王子電気軌道が開通し「かみやばし」という停留所ができたことで、「将来には地名もやがてカミヤになってしまふ」と、その読み方が変わることに危惧が記されています。このように地名は、時代を経るにつれ、読み方が変わってしまうことが間々あるのです。果たして江戸時代には何と読んでいたのか、結構、難しい問題です。



【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】



今月の展示

テーマ： 飛鳥山

期間：平成28年4月1日(金)～4月27日(水)

場所：「北区の部屋」展示コーナー

お花見の季節がやってきました。お花見といえば飛鳥山の桜。
江戸時代以来、桜の名所としても名高い飛鳥山のあれこれをご紹介します。

古文書講座

「古文書の世界へようこそ！」

日 時：5月13日(金)～6月17日(金)

(毎週金曜日 計6回)

午前10時～12時

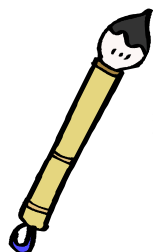
講 師：北区の部屋・地域資料専門員

ほ が き たかゆき
保垣 孝幸氏(近世史研究家)

場 所：中央図書館 3階ホール

対象者：区内在住・在勤・在学の方
(18歳以上)

定 員：25名(抽選)



北区の古文書を題材に、くずし字の調べ方など初步の解読を演習形式で行います。

申込方法：往復はがきに講座名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号(Fax番号)、在勤、在学の方は勤務先・学校名・学年、返信用表面に申し込む方の住所、氏名を明記の上、下記までお送りください。

締 切：4月25日(月)(必着)

申込・問い合わせ先

北区立中央図書館事業係

〒114-0033 北区十条台1-2-5

電話 03-5993-1125(代)

お使いください！

別冊 北区の歴史はじめての一步 索引・年表集

ご好評いただいている北区立中央図書館発行の「北区の歴史はじめての一步」の「索引・年表集」が出来ました。既刊の7冊と合わせてご利用ください。調べたい単語がすぐに引ける索引と、北区のできごとが何編に載っているかがすぐに分かる年表です。「北区の歴史 はじめての一步」が更に使いやすくなります。

下記の場所で無料配布しています。

無料配布中！

(B5判、モノクロ、18ページ)

「索引・年表集」配布場所

中央図書館北区の部屋

滝野川図書館、赤羽図書館

北区飛鳥山博物館

北区役所第一庁舎区政資料室



「北区の歴史はじめての一步」全7冊、好評販売中！

北区立図書館で貸出しているほか、左記の「索引・年表集」配布場所で販売しています。 各300円

北区の部屋だより

第82号

2016年5月



刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 28 年 5 月発行

北区こぼれ話 第81回

憲兵さん行かないで！ ふんけんじょ 赤羽の憲兵分遣所存続運動

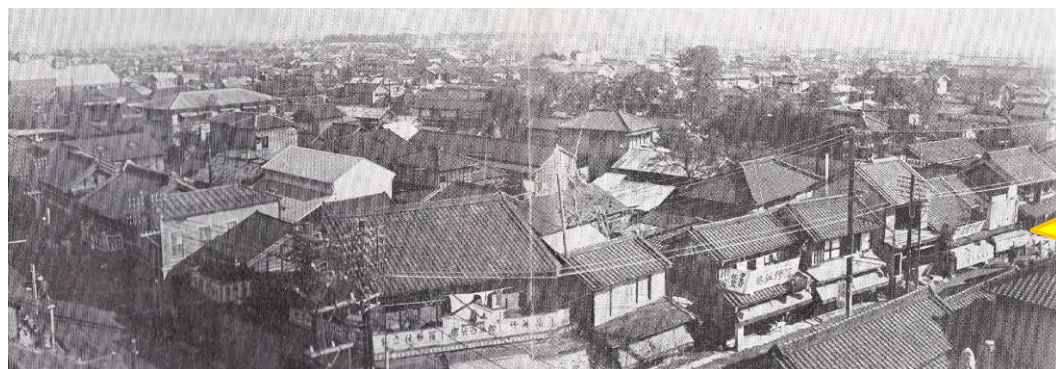
憲兵とは、警察官のような仕事をする軍人のことです。文民警察官という言葉がありますが、その対義語がMPと略されるミリタリーポリス、つまり憲兵です。自衛隊にも警務隊がありますが、戦前の憲兵ほどの権限はありません。

憲兵と言えば、昭和初期に、治安維持法や陸軍刑法、軍機保護法などの違反容疑で強権的な取り締まりをしたことが有名です。ただし、もっと前の時代、地域社会の中で憲兵は必ずしも否定的なイメージだけで語られていたわけではありません。大正 13 年（1924）7 月 9 日の『東京朝日新聞』東京版には「憲兵分遣所存続運動」という記事が掲載されています。憲兵隊の赤羽分遣所廃止に際して「当町[岩淵町]では警備方面から非常な不安を感じ全町一致其存続を熱望して居るので、八日、助役は、清水消防組長、河波青年団長同伴、陸軍省に軍務局課員人見大尉を訪問し極力其の斡旋方を依頼して快諾を得た。二十日頃迄には経過も判明する筈であるから、其成行を見て成功を見る迄運動を継続する意嚮である」と書かれています。

しかし、陸軍省当局は、この依頼を聞き入れませんでした。7 月 22 日の同紙には「存続絶望」として「町民全体が非常な期待を持って居た憲兵分遣所の存続は、到底不可能で二名詰め位の分駐所は設置する意嚮があることを当分遣所まで内報があったらしい。町としての希望は、憲兵分隊少なくとも現在[の]分遣所程度の警備機関の設置にあるので全く悲観」とあります。通常、憲兵は、民間人同士の一般的犯罪に関わることはありませんが、防犯という意味で、憲兵分遣所が住民に与えていた安心感は大きかったのです。

この頃の時代背景を確認すると、大正 11 年から翌年まで、山梨半造陸軍大臣により、日本陸軍初の軍縮である山梨軍縮がおこなわれました。さらに、大正 14 年には、宇垣一成陸軍大臣により本格的軍縮である宇垣軍縮が断行されました。昭和戦中期に比べ、大正時代の軍人は、国民に対して低姿勢だったといえます。法律的にも、悪名高い治安維持法が成立したのは大正 14 年のことで、この記事の時点では存在しません。また、大正 12 年の関東大震災後、都心から東京周辺部への人口移動により、この辺りは急激に都市化が進みました。憲兵分遣所存続運動には、そのようなことも関係していたのかもしれません。

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】



昭和初期の赤羽周辺の街なみ（『岩淵町郷土誌』昭和5年より）

今月の展示



テーマ：これなに？路上観察3

ー中央図書館から東十条駅までー

展示期間：平成28年4月29日(金)～5月25日(水)

展示場所：「北区の部屋」展示コーナー

中央図書館から東十条駅までの道すじの周辺にある、少し不思議なもの、知られざる歴史を示すものを集めてみました。

図書館からの帰り、少し遠回りしてみませんか？



DVD「北区映像アーカイブによる街おこしシリーズ」を貸出します！

平成25年度から27年度の3年間、「北区政策提案協働事業」として中央図書館・飛鳥山博物館と協力団体である街づくり・フロンティア21が協働で「映像アーカイブによる街おこし」事業を行いました。

失われつつある北区の風景や暮らしが記録された8mmや16mmフィルムを提供していただき、テレビシネ化（デジタル化）、上映会等を通じて地域の活性化につなげる活動に活用してきました。

この事業で集まった北区の懐かしい映像を、多くの方に見ていただけるようDVDを貸出します。第1弾は以下の2本です。今後装備が整い次第随時貸出していく予定です。

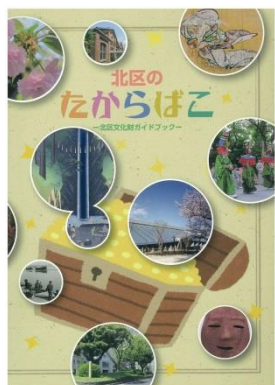
展望台のあったころの飛鳥山や都電の花電車、街並みや服装など、プライベート映像から当時の北区の記憶がよみがえります。ぜひご覧になってみてください。「北区の部屋」のDVD配架棚にあります。



シリーズNo.	サブタイトル	撮影年	上映分数	内 容
No.17	都電荒川線、花電車・栄町、飛鳥山公園	1978年	9分55秒	昭和53年に栄町停留場から撮影された都電の花電車ほか
No.31	松井家の人々	昭和初期	34分	昭和の初め十条で病院を開業されていた松井正雄氏が家族を中心に撮影した映像。第1回王子区会議員選挙の様子も写っている（注・当時は「区議会」ではなく「区会」）

（当時のフィルムは音声が無いものもあり、貸出するDVDは一部を除き、映像のみとなっています。）

コラボ販売実施中！ 新刊本登場



「北区の部屋」では、中央図書館発行の冊子とともに、飛鳥山博物館や広報課発行の冊子を販売しています（詳しくは北区の部屋のカウンターにお尋ねください）。

新たに飛鳥山博物館が本年3月に発行した冊子「北区のたからばこ」-北区文化財ガイドブック-を販売します（500円）。

北区内の国・都・区指定文化財を中心に北区の歴史や民俗がわかりやすく紹介されています。また、北区の地域資料として貸出も行っています。ぜひご活用ください。

北区の部屋だより

第83号

2016年6月



刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 Tel.03-5993-1125 平成 28 年 6 月発行

北区こぼれ話 第82回

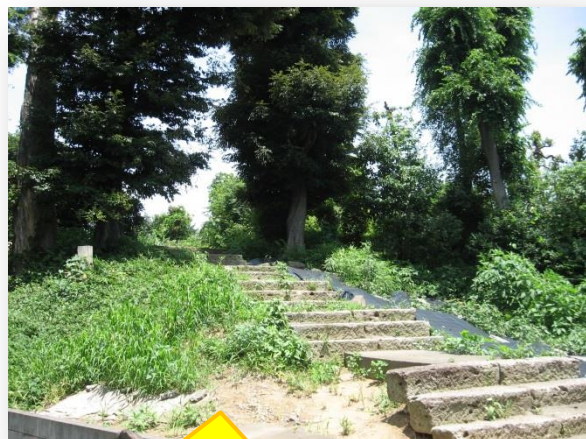
や お び く に 北区に残る八百比丘尼伝説

昔、若狭国（現在の福井県）に住んでいた一人の娘が、誤って人魚の肉を食べてしまい、それから全く歳を取らなくなっていました。両親や友人たちは次々と他界していきます。残された彼女は尼になって諸国巡礼の旅に出るのです。彼女は八百歳まで生きたことから八百比丘尼（「はっぴやくびくに」とも）と呼ばれています。この伝説は全国各地に伝わっていますが、特に比丘尼が舟で移動していたことから、海浜や川辺など水辺特有の伝説となっており、荒川沿岸に位置する北区域でも確認することができます。

現在の赤羽北 1 丁目にある堂山の麓に 1 艘の舟が流れ着きました。村人たちが近寄ると、中にはこの世のものとも思えないほどの美人が乗っていました。彼女が噂に聞く不老不死の八百比丘尼だと知り、村では堂山の上に草庵を建て比丘尼を住ませたといわれています。このとき、彼女が乗っていた舟をつなぎ止めた 1 本の杭が芽吹き松の大木になりました。『新編武蔵風土記稿』袋村の項には「近き年まで堂の前に比丘尼が植えたる古松ありしとなり」と記してあります。

また、昭和町の付近にも八百比丘尼に関する伝説があります。昭和町の一帯は中里村に属していましたが、そこには「比丘尼東」「比丘尼西」といった地字がありました。この比丘尼とは八百比丘尼のことで、この辺りの集落で 200 年を過ごしたといわれています。現在の昭和町 2 丁目と荒川区西尾久 7 丁目の境の場所には、「八百姫様」という八百比丘尼を祀った祠があったそうです。北区ではありませんが、お隣り荒川区の日暮里諏訪神社でも、別当浄光寺の本尊が、八百比丘尼から与えられたものだという縁起が残されています。

これらの話が本当かどうかは、あまり問題ではありません。話が伝わっていることが重要なのです。足立区郷土博物館の加増啓二氏は、「この伝説は、豊島郡が遠隔地と海洋で繋がっているイメージを表出する点が重要である。」と指摘しています（「領域と霊域—中世入間川流域と女性往生伝説—」地方史研究協議会編『江戸・東京近郊の史的空間』雄山閣、2003 年）。かつての豊島郡域は、川や海を通じて、日本海側の若狭国をはじめ、全国各地と繋がっていた。そんなイメージを共有していたからこそ、こうした伝説が地域に残っていると考えられるのです。



【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

現在の赤羽北一丁目・堂山

今月の展示



テーマ：王子大滝

展示期間：平成 28 年 5 月 27 日(金)～6 月 22 日(水)

展示場所：「北区の部屋」展示コーナー

かつて石神井川に設けられていた石堰は「王子大滝」とも呼ばれ、涼を求めて訪れる多くの人々で賑わっていました。今回の「北区の部屋」の展示では、今はなき「王子大滝」について取り上げ、その歴史を振り返ってみたいと思います。

名所江戸百景 王子音無川堰球世俗大滝ト唱
(歌川広重 (初代) / 画 安政 4 年)

北区図書館活動区民の会地域資料部 「北区の歴史を学ぶ会」のお知らせ

北区図書館活動区民の会地域資料部では、北区の地域資料の収集保存や活用に、図書館と協働でさまざまな取り組みを行っています。北区の地域資料を考える上で、まずは北区の歴史を学ぼう！と開催されているのが「北区の歴史を学ぶ会」です。北区の部屋の地域資料専門員も加わり、毎月 1 回、参加者が、北区についてさまざまなテーマで調査した内容を発表したり、北区の部屋の資料を使って学習したり、定点観測で写真を撮り資料作成したりとさまざまな学習を行っています。

開催日：毎月第 4 火曜日 午後 2 時～ 4

場 所：3 階 区民活動コーナー

【6月の予定】

日時：6月28日(火) 午後2時～

★参加者による「赤羽の同潤会住宅」についての発表を予定しています。

★北区の歴史に興味のある方ならどなたでも参加出来ます。

お問い合わせは、区民の会事務局

☎03-5993-1125(中央図書館内)まで

初心者大歓迎！みなさまのご参加お待ちしております！！

会員募集！

北区図書館活動区民の会 地域資料部



北区図書館活動区民の会の地域資料部では、図書館と協働で地域資料の充実を図るための活動を行っています。

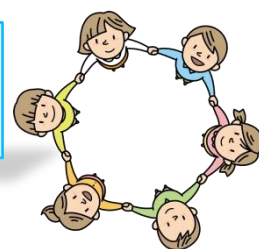
主な活動内容

- ・「北区の部屋」の資料のPR
- ・北区内の社史の収集のアプローチ活動への協力
- ・歴史講演会・学習会や小学生向けナイトツアーの開催
- ・北区の地域に詳しい方からの聞き取り
- ・「北区の歴史を学ぶ会」での歴史学習

☆地域資料部会を毎月 1 回(原則第 1 火曜日夜)開催し、運営について話し合いを行っています。

★詳しくは、「北区図書館活動区民の会」事務局まで ☎03-5993-1125 (中央図書館内)

中央図書館で一緒に
活動しませんか？



北区の部屋だより

第84号

2016年7月



刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 28 年 7 月発行

北区こぼれ話 第83回

せいちょう 松本清張が描いた田端 —田端駅開業 120 周年に寄せて—



田端駅は、今年で開業 120 周年です。そこで、今回は推理小説の中の田端についてお話ししましょう。松本清張に『死の発送』という作品があります。昭和 36 年（1961）から翌年にかけて発表されました。事件のあらすじは、つぎの通りです。福島県の東北本線五百川駅近くで、トランクに詰められた死体が発見されます。トランクは、ある人物が田端駅から郡山駅へ送ったものでした。その送り主こそが、死体として発見された本人だということです。ここまでの部分で少し説明が必要でしょう。駅から荷物を送るということです。当時、手荷物や、郵便局で受け付けてくれない大きな荷物は駅に頼んでいました。『交通公社時刻表』の国鉄営業案内のページにも、荷物を送るときの説明や料金表が載っていました。なお、この小説を結末まで読み進めると、なぜ田端駅と郡山駅という設定なのか理由が分かります。両方とも貨物操車場があるからです。これ以上の説明は、謎解きの邪魔になるのでやめておきます。

ところで、清張は、田端を「場末」のイメージで描いています。『死の発送』に出てくる田端駅前の食堂「幸亭」は、食券制であり、食品サンプルについて「小判型に盛り上げた飯の上にどろっとかかっているカレー」といった具合に安っぽく表現されています。また、周辺の鉄道施設については「うかつに歩いていると、不意にうしろから走ってくる機関車に轢かれそうな錯覚が起きる」とか「窓の外には暑そうな空がひろがり、ガラス戸越しに絶えず列車の警笛が聞こえてくる」という、どこか虚ろで不安げなイメージで描写されています。

清張にとっての田端のイメージは、どこから来たのでしょうか。実は、この作品の前に、清張は、下山事件を推理した『日本の黒い霧』を発表していました。下山定則国鉄総裁が都心のデパートで行方不明となり、翌日に常磐線で轢死体となって発見された事件です。清張の推理では、GHQの謀略機関が「北区にある一地点」（赤羽の兵器補給廠を唆）で下山総裁を殺害し、死体は引込線から貨車で田端へ運び、占領軍専用列車に連結されて常磐線へ送ったということです（米軍や鉄道については、清張の「幻の『謀略機関』」をさぐる）昭和 44 年が詳しい）。総裁を轢いた後続の貨物列車も田端発であり、田端機関区では事件直後から不思議な出来事が連続的に発生したとも言います。

この推理には、今日まで様々な反論が公にされていますが、それらの当否は別として、この事件が、田端についての清張の印象に影を落としているのは明らかです。『死の発送』のストーリーは、下山事件の推理とも重なります。両作品とも、田端は、謀略や事件に関わる、都心からはずれた鉄道の要衝というイメージで語られているのです。

清張には、ほかに、田端の貯炭場が謎解きのポイントとなる『声』という作品もあります。興味のある方は、ぜひ、これらの作品をご一読下さい。

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】



写真：田端駅 昭和 27 年 手川文夫氏撮影

今月の展示

王子駅前を走るレトロな都電9000形

再発見！都電荒川線

—その歴史と魅力を訪ねる—

展示期間：平成28年6月24日(金)
～平成28年7月27日(水)

展示場所：「北区の部屋」展示コーナー



あの東日本大震災直後の東京。JRの駅はシャッターを閉じ、バスは超ノロノロ運転。そんな中、地震発生からわずか2時間たらずで、全線運転を再開した交通機関がありました。都電荒川線です。その夜「帰宅難民」があふれる車内で、親切な運転士さんが、停留場ごとに道案内のアナウンスをしていました。その姿は、不安の中にいた乗客たちを感動させました。

そんな頼もしい都電荒川線の魅力や、廃止問題にゆれた苦難の歴史、ゆかりのある建物や保存車両などについてご紹介します。そして、次世代型路面電車システムLRT(ライトレールトランジット)などをめぐる路面電車再評価の動きにも注目します。梅雨の晴れ間、小さな発見を求めて都電荒川線に乗ってみませんか？

平和図書コーナーを開設します！



北区では昭和61年に制定した平和都市宣言を記念し、今年度も8月2日(火)から6日(土)までを『平和祈念週間』として、北とびあで平和を願うさまざまな催しを実施します。

図書館でも『平和図書コーナー』を設け、この取り組みに全館を挙げて参加を行っています。来館者の方々が平和について考えるきっかけにしていきたいと思います。

◆開催期間

7月29日(金)～8月31日(水) ※休館日を除く

◆開催場所

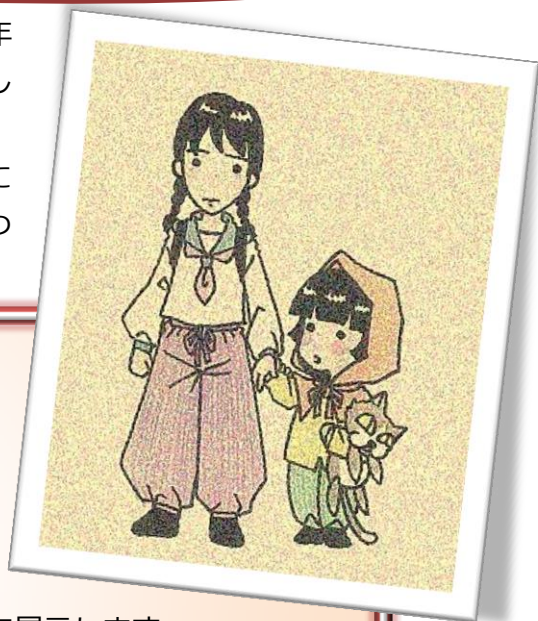
・平和図書コーナー(一般書)

中央・滝野川・赤羽図書館にて

※中央図書館では、『北区の部屋』の地域資料専門員が選定した資料を、1階入口正面柱周りの展示コーナーで展示します。

・子ども向け平和図書コーナー(児童書)

全図書館にて(改装工事中で休館の昭和町図書館を除く)



北区の歴史に
関わる資料を
探しています!!

皆さんのお宅に、北区に関わる古い写真や地図・文書などは眠っていませんか？中央図書館『北区の部屋』では、このような古い資料を地域資料として収集しています。江戸・明治・大正期はもちろん、昭和期の戦前・戦後の資料も当時の北区を知る貴重な資料となります。お持ちの方はぜひご一報ください。

※中央図書館図書係 地域資料担当 ☎ 03-5993-1125 (代)

北区の部屋だより

第85号

2016年8月



刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 28 年 8 月発行

北区こぼれ話 第84回

はながさ 奪い合われる花笠れいさい～王子田楽おうじでんがくの熱狂～

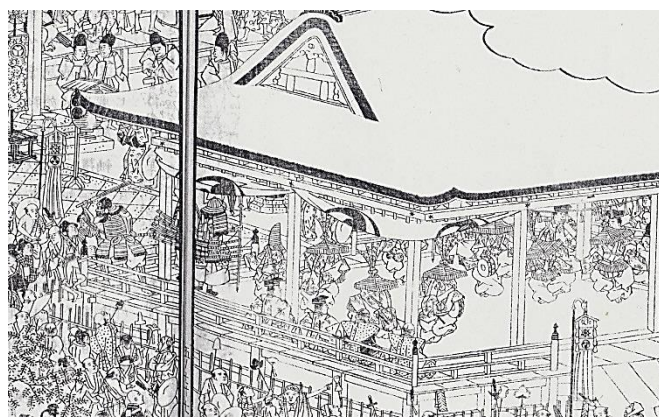
毎年、八月上旬の日曜日に行われる王子神社の例祭では、「王子田楽」が奉納されます。中世以来の面影を色濃く残す民俗芸能で、北区で最初に文化財指定されました（北区指定無形民俗文化財、昭和 62 年（1987）4 月 1 日指定）。戦争で中断して以降、長らく踊られていませんでしたが、昭和 58 年（1983）に地元有志らの努力で復興し、現在でも地域の子どもたちが踊り手となって舞い継がれています。

さて、この「王子田楽」は十二の番組で構成されているのですが、実際に最後まで演じられていたかという、そうとは限りません。途中で田楽法師らが被る花笠かぶの奪い合いが始まるからです。最初は、十二番の子魔帰（こまがえし）という番組が終わると花笠を見物人へ投げ入れ、それを奪い合っていました。江戸時代も半ばを過ぎた頃から、見物人が舞台に上って花笠を奪い取るようになりました。そのため、舞台の回りには竹矢来たけやらいが組まれるようになりますが、それでも矢来を越えて人々が殺到します。欄干から転げ落ちる者、叩かれてうずくまる者など、凄まじい光景が展開したといえます（『見田楽記』（でんがくをみるのき））。

こうした花笠争奪戦は明治以降も続き、これを制しようとする巡査の叫び声、一方で女性や子どもたちの悲鳴が交錯するなか、棒で叩き合って花笠を奪い合うといった惨憺さんたんたる状況になっていました（『高木日記 3』明治 42 年 8 月 13 日）。だいたい五・六番になると花笠の奪い合いが始まるとも記されていますが、明治 44 年（1901）のときは、早くも二番目の踊りで「笠ノ取合ヒ喧嘩」が始まりました。こうなるともう踊りどころではありません。王子神社の祭礼が、かつて「喧嘩祭り」とも呼ばれていた所以です。こうした熱狂が落ち着きを見せてきたのは大正 10 年（1921）頃でしょうか。この年は舞殿まいでんに上って笠を奪い取る者がいなかったと日記に記されています（『高木日記 22』大正 10 年 8 月 13 日）。

奪い取った花笠は、疱瘡除け、悪病除け、様々な災難除けにご利益があったといわれ、明治以降も厄病除け、火災除けの縁起物とされていました。そのために人々は、花笠を手に入れようと奪い合ったのです。さすがに現在の祭礼で花笠争奪戦はありませんが（絶対にやってはいけません！）、かつての情景を思い浮かべながら、改めて「王子田楽」を見るのもいいのではないのでしょうか。

【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】



江戸時代の王子田楽（『江戸名所図会』より）

今月の展示



テーマ:北区の部屋版「あれから40年…」

場 所:北区の部屋 展示コーナー

期 間:平成28年7月29日(金)~8月24日(水)

人気漫談家お得意フレーズでもある「あれから40年」。この間、北区もいろいろ変わりました。そこで今回の展示では、40年前の北区を取り上げ、みなさんに思いっきり昔を懐かしんでいただきたいと思います。また、まだ生まれていない人、北区に住んでいなかった人は、かつての北区の様子を新鮮な目でお楽しみください。

王子神社田楽舞 北区指定無形民俗文化財

北区の部屋だより1面の北区こぼれ話第84回でも紹介されている「王子神社田楽舞」が今年は8月7日(日)に行われます。

(16時30分北区役所第4庁舎前から出発予定)
北区の民俗文化財をぜひご堪能ください。

「北区の部屋」が所蔵する王子田楽に 関する資料(一部)

●『王子田楽舞』(王子田楽衆発行
／平成20年)写真集

●『「若一王子縁起」絵巻』
(文化財研究紀要別冊第1集)
(北区教育委員会／昭和63年)

●『東京北区の祭りと芸能』
(石川博司/著、ともしび会発行／平成25年)など



探しています!



ご当地盆踊り



夏の風物詩「盆踊り」の季節がやってきました。北区の部屋では、区内の町会などで踊られている地元の「音頭」などの音源や振付の図解資料なども集めています。著作権がクリアされたものでしたらなんでも結構です。情報をお寄せください。

(北区の部屋で音源を持っているもの)

- ・北区音頭(北区新聞社)
- ・しもふり音頭(霜降たちばな会)
- ・王子小唄(東京の民謡

／コロンビアミュージックエンターテイメント)

- ・飛鳥山音頭(同上)

※振付がわかりません。こちらも探しています。

平和図書 コーナー 開催中!

北区では昭和61年(1986)に制定した平和都市宣言を記念し、今年度も8月2日(火)から6日(土)までを『平和祈念週間』として、北とびあで平和を願うさまざまな催しを実施します。図書館でも『平和図書コーナー』を設け、この取り組みに全館を挙げて参加を行っています。来館者の方々が平和について考えるきっかけにしたいと思っています。

◆開催期間 7月29日(金)~8月31日(水) ※休館日を除く

◆開催場所 ・平和図書コーナー(一般書) 中央・滝野川・赤羽図書館にて
※中央図書館では、「北区の部屋」の地域資料専門員が選定した資料を、1階入口正面柱周りの展示コーナーで展示しています。

・子ども向け平和図書コーナー(児童書)

全図書館にて(改装工事中で休館の昭和町図書館を除く)

